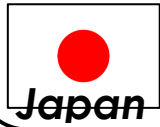


架け橋



JICA 海外協力隊 2021 年 1 次隊

ナミビア共和国 小学校教育

ウサコス エロンゴサ小学校

川畑 舞



第 20「エロンゴサ小学校 授業実践」号

(2022 年 11 月発行)

1、エロンゴサ小学校の授業実践

今回は、エロンゴサ小学校で実施した授業実践の様子についてお伝えします。

11 月 4 日に、仲間の隊員と共に、低学年の先生の授業力改善を目的とした授業実践を行いました。11 月 3 日に児童と先生の実態把握、研修会を実施し、それらを踏まえて授業計画を立て、次の日にその授業を実践しました。研修会で、指導法や具体と抽象の話（詳しくは第 19 号をご覧ください）をしていたので、現地の先生との協議も円滑に進みました。

2、プレプライマリーの授業実践の様子

初めに、プレプライマリー（0 年生）の授業実践の様子をご紹介します。授業の初めは、数の歌を歌ったり、数を数えたり、具体物の 1 と数字の 1 を組み合わせたりする活動を取り入れました。子供たちの気持ちが自然に算数の学習へと向かっていきました。

その後の活動では、先生が配ったキャップの数を数える学習をしました。例えば、先生が「赤色のキャップはいくつありますか？」と尋ねたら、児童は赤色のキャップの数を数えて「7！」と答えます。前日の授業では、7 個と 8 個や 8 個と 9 個など、数が多くなると数え間違いをする児童の姿が見られました。そこで、数を正確に数えられるように、5 のまとまりを作って数を数える方法を担任の先生に提案しました。子供たちは、ワークシートの枠の中にキャップを並べて、数を数えたらワークシートに数字を書きます（ワークシートをファイルに挟み、水性ペンで書いているので、何度でも消すことができます）。先生は数字が合っているかを確認することで児童の理解度を確認（評価）しました。

ほとんどの児童が正確に数字を書くことができました。しかし、まだ 5 のまとまりを認識しておらず、1 から順番に数を数えていました。今後は 5 の続きから数を数えたり、数を数えなくても配列を見て瞬時に数が分かったりするように学習していく必要があります。

指を使って数える児童（研修前）



キャップの数が多くなると数え間違いをする児童の姿が見られました。

キャップを並べて数える児童（研修後）



ワークシートを作成し、5 のまとまりを意識して数を数えるようにしました。

3、3年生の授業実践の様子

次に、3年生の授業実践の様子をご紹介します。3年生では、11月3日の授業観察では、たし算、ひき算、かけ算、わり算の文章問題を解く学習をしていました。児童の様子を見ていると、四則計算のどれを使ったらよいか分からなかったり、仮に立式できたとしても計算できなかったりして、混合した文章問題を解くという課題は児童の実態に合っていないのではないかと考えました。そこで、11月4日の授業実践では、かけ算の文章問題に絞り、かけ算の復習を授業に取り入れることを担任の先生と話し合いました。

授業の初めは、九九表を使用し、短時間でかけ算の復習をしました。ナミビア共和国には、日本のように「にいちがに、ににんがし…」といった特別な唱え方がないため、かけ算を覚えている子は、2ずつ増える数字(2,4,6,8…)や3ずつ増える数字(3,6,9,12…)のみを暗記しています。よって、答えが整理された九九表は児童に有効な教材と言えます。

その後の活動では、かけ算の文章問題に取り組みました。問題を提示する際に、児童が同じ数ずつ増えるというかけ算の決まりに気が付きやすいように、図(半具体物)を活用しました。立式では、児童より「3+3+3+3+3」という式が出てきたので、それだと長いから「5×3(現地表記)」の方が簡単という話し合いができました。

授業のまとめでは、似たような文章問題を提示し、児童が自力で解けるかを確認(評価)しました。理解していない児童に対しては、個別に指導することで支援しました。

立式と計算につまずく児童(研修前)	自力解決するための手立て(研修後)
	
<p>文章問題において、立式と計算の両方につまずく児童の姿が見られました。</p>	<p>かけ算の復習から授業を始め、図を使って問題場面を把握できるようにしました。</p>
個別指導の様子(研修後)	ノート指導の様子(研修後)
	
<p>全体指導で理解できない児童に対しては、個別指導することで支援しました。</p>	<p>黒板を4分割にして使うので、児童もノートを4分割するようにしました。</p>



4、2年生の授業実践の様子

最後に、2年生の授業実践の様子をご紹介します。2年生では、11月3日の授業観察の際に、かけ算の学習をしていました。児童の様子を見てみると、かけ算の意味を理解していなかったり、図を描かないと答えを求めることができなかったりしていました。そこで、(1)1段ずつ学習していくこと、(2)「1の段→2の段→5の段→3の段→4の段（以下順番通り）」の順番に学習していくこと、(3)研修会で話した「具体→数字（抽象）→練習」の流れで授業を構成することの3点を担任の先生と話し合いました。

授業の初めは、図（半具体物）を使いながら「2 groups of 3 = 2×3 （現地表記）」というかけ算の意味を確認していきましました（具体→数字）。すると、途中から児童より「次の数字は18だよ。」という声が聞こえてきました。何人かの児童は、黒板に描かれた玉の数を数えなくても3ずつ増えるという3の段のかけ算の決まりを使い、「 $15+3$ 」を頭の中で計算することができていました。

その後の活動では、3ずつ増えるという3の段のかけ算の決まりを全体で確認し、「□,6,9,12,15…」 「□,□,9,12,15…」 「□,□,□,12,15…」 というように黒板の数字を1つずつ消して、3の段のかけ算の答えを覚えられるように練習しました（数字→練習）。何も見ないで30まで言えた時は子供たちも嬉しそうでした。

本来なら授業の始まりに、鉛筆や飴など児童の身近にあるものを配る活動（具体物を使った活動）を取り入れたかったのですが、今回は授業時間の関係でできませんでした。しかし、絵や図を描かないで「数字を使って計算できる児童を育成」するために、授業を「具体→数字→練習」の流れで構成することはとても有効だと感じました。

図を描いて計算する児童（研修前）	数字を使って計算する児童（研修後）
	
<p>図を描かないとかけ算の答えを求められない児童の姿が見られました。</p>	<p>図と数字が結び付き、数字を使って計算できるように学習しました。</p>

5、研修会や授業実践の成果

普段、私は4年算数、4-7年情報、4-7年体育を担当しているので、なかなか低学年の算数を支援できずにいました。しかし、今年度、4年生の算数を指導して、特に計算領域において、低学年からの積み重ねのない中で4年生の学習内容を指導することは難しいと感じました。そこで、低学年の授業改善を図りたいと思いました。今回、研修会や授業実践を通して、低学年の先生より算数の質問をされたり、教材を共有してほしいと言われたりすることが増え、算数指導に対する意識を高められたことが大きな成果になりました。